

紅葉がきれい・・・山登りでもしたいな・・・と、思っているうち、落ち葉の季節になってしまいました。  
お元気でしょうか？

今回は、育児まっただ中のお母さんたちからの相談をとり上げてみようと思います。 お子さんを寝かしつけたあと、あわただしかった1日をふり返りながら、ゆっくり読んでみてください。

私のところに相談にいらっしゃるお母さん達は、とても育児に熱心な方達です。  
でも熱心さのあまり逆にお子さんにとって良くないこともあります。  
いつも言うように「こうしなければ駄目」 とか「こうすれば絶対大丈夫」  
と言った子育てマニュアルはありません。一人ひとり違う子どもの育ち方や、  
表現のしかたを楽しみながら、その子に合わせた関わり方をみつけていくのです。  
そこが育児の面白いところです。



最近少し気になっていることがあります。  
「育児サークルに行ったのですが、うちの子、みんなの輪の中に入れてません」  
「スーパーにつれていくと迷子になるし、じっとしていないのです。小児科の先生にも多動傾向があると言われました」  
「ADHD ではないかと...」  
「自閉的傾向があると...」  
一様に暗い表情でお子さんを  
みていらっしゃるのです。



「気にかける」ことは大切ですが「この子は障害児」というレッテルを貼ってしまったり、「悲観的な見方」をしてしまったりするのは決して良くありません。

昔は「年寄りが育てると3文安」と言われるくらい 何でも「いいよ いいよ」「お前は一番良い子だ」と、無条件に可愛がってくれた、おじいちゃん、おばあちゃんも今は「となりの子は、もうこんなことが出来るよ」とか「こんなことじゃ駄目だよ」など心配され、逆にお母さん達のストレスを促進させているような、お話もよく聞きます。

子どもの数が少ないと言うことは、他と比較して「この子は...」といった目でみられがちで、それ自体、子どもの行動を萎縮させてしまうように思います。

もっと、のびのび育てたいと思うのですが...



「みんなの輪の中に入れない、このままでは幼稚園にも入れないのでは…」

こんな相談が意外に多いのです。

幼稚園に入って一年たっても、まだみんなの中に入らず、自分勝手に動いているのは気になりますが、入園前のお子さんが、しかも慣れない所に行って輪の中に入れなくても、少しも心配ありません。

気になったものを見つける さわってみる 次々違ったものに興味に移る 。ひとりで気ままに探索し、まわりの子ども達が何をしているか、ほとんど気がつかないほど自分の世界にひたっている。2才児・3才児は、これが当たり前なのです。

むしろ、このような自由な活動をとりあげて、おとなの考えた枠の中に無理に入れてしまうことのほうが心配だと思います。なぜなら「自分の心を動かす」「自分の意志で意欲的に周囲の環境に働きかける」といった、この時期一番大切にしたいことの芽をつんでしまうからです。

この時期の幼児には、もっと自由で気ままにあそべる所を選んであげてください。このような場では、お子さんの目が輝きます。目が輝くということは、脳が活発に活動している証しなのです。



また、「お友達が持っているものが欲しくて、みるとすぐ取り上げてしまう 困った子」

「気に入らないと すぐに手が出る子」 こんな相談もよくあります。

また、これと反対に「取られても何もいえないので、見ている親のほうがストレスを感じてしまいます」など・・・

実は私も男の子を二人育てましたが、同じように育てたつもりでもまったく違っていました。

3～4歳の頃ですが、例えば電車の中で足を踏まれても、一人は痛そうな顔で耐えているのですが、もう一人は「いたいっ」といいながら相手の足を踏み返すのです。

同じ兄弟でも、こんな小さい時から「その子らしさ」を思いきり出しているのです。でも、親にしてみれば、こんなに素直に出してくれると、とてもわかり易いですね。

「痛いときは痛っていわないとわからないよ。いつまでも踏まれていたらいやでしょ」とか、

「自分がいやなことは、みんなもいやなのよ」というように、その子にあった対応ができます。

「これはまずいな」と思うことを、親の目の前でやってくれたほうが、うんと育て易い「良い子」だと思うのです。

この時期の困った行動は、そんな気持ちで見てほしいのです。

だってまだ生まれてから3年そこそこしかたっていないのですよ。しかも自分の意志でことばを話したり、手足を使って動き始めてからせいぜい1年か2年。わからないことや、できないことがあるのが当たり前です。



## 「母性性が心を育てる」ということ

今、精神科のお医者さんや、臨床心理の先生たちがとっても忙しいそうです。

何故なら、「おとなの目からみて、良い子と思われてきた子ども」の中に「人間の心が育っておらず、考えられない行動に出る子」が多くなったのです。

そしてその先生方が、口を揃えておっしゃることは「母性の欠如」なのです。

「母性」とは「出来の悪い子ほどかわいい」といわれるように「どの子どもそれぞれに良いところがある」「お母さんはそんなあなたが好きよ」というように一人ひとりを大切に思い、肯定的に受けとめる感覚です。それに対して「父性」とは、「社会にはルールがある。人に迷惑だからやめなさい」とか「次の目標に向けてがんばってみなさい」など理論的に筋を通し、秩序感や持続感を育てるものです。

即ち、「父性性」とは「母性性」に対して、厳しさを教えるものです。「やさしさ」と「きびしさ」子育てにはこの二つが必要です。

一般的に、父性性は父の愛、母性性は母の愛といわれていますが、誰にも両方持ち合わせているので、シングルのお家庭でも「うちはできない。無理だわ」と思わず、意識して育てれば大丈夫。立派に育てていらっしゃる方がたくさんあります。



今の時代に必要な教育は？

親としてのあり方などについて教えてください。

今、社会はめまぐるしい動きで変化しています。

銀行も学校もどんどん変わり、財産があっても、有名大学を出ても、役に立たなくなるかも知れません。私たちは便利で快適な生活を求めてきました。そしてそれが実現したと思ったら、その代償として地球の温暖化・・・このままの状態で行くと近い将来、生物社会のバランスが崩れ、大変な環境になってしまうでしょう。

オゾン層の破壊から紫外線の恐怖がいわれるようになったのもここ数年のこと。今では子どもたちにとって切り離せないテレビゲームも、脳に恐るべき影響が出ているという調査もあります。

本当に10年先、20年先 どう変わっていくのか、だれにもわからないのです。

そのように考えると、将来どんな時代がきても、しっかり自分で生きていける力をつけておくこと。どんな困難にぶつかっても、冷静に考え、対処できる能力、気力、体力。人間としての感性や判断力などをしっかり育てておくことが必要です。



具体的に幼児期、何を教えればいいのか？

親としてのあり方を考えてみましょう。

励ましたり、認めたりしながら、楽しんで手指や体を動かすようにしむけましょう。

家族で会話を楽しんだり、絵本などを読み聞かせ、言語表現を豊かにしましょう。

できるだけ外で一緒にあそんだり、自然にふれるようにしましょう。

小さくても、いけないことは「いけない」と教え、ルールや がまんすることを教えましょう。

物での愛情表現でなく「その子らしさ」や「力」を全身で受け入れてあげましょう。

「幼稚園教育要領」(文部科学省)では、「生きる力」について、次のように解説しています。参考にしてください。

「いかに社会が変化しようと、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」

「自らを律しつつ他人と共に協調し、他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性」

そして「たくましく生きるための健康な体力」を重要な要素として挙げています。